

## 学習内容報告書 フォーマット

学校名	那智勝浦町立下里小学校
授業者	灰戸 みほ（第5学年） 岡本 景子・温水 起美好（第6学年）

### 1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

#### 1-1. 単元名

「養殖・栽培漁業体験学習」 ～クロマグロ完全養殖について調べよう～

#### 1-2. 学年

第5学年、第6学年

#### 1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

国語科、社会科、理科、総合的な学習の時間

#### 1-4. 単元の概要

クロマグロ完全養殖に成功した研究者である、近畿大学名誉教授で農学博士の熊井英水氏を講師として招聘し、クロマグロの完全養殖についての話を聞く。その話を基に、養殖・栽培漁業についてさらに調べ学習を行う。体験活動として、実際に近畿大学水産研究所を訪問し、マダイ・ヒラメ・クロマグロなどの稚魚や餌、水槽、生け簀などを見学して、学習したことを深める。

5年社会科「水産業のさかんな地域」の学習との関連を図り、海の資源を守るために養殖・栽培漁業が必要であること、水質など環境保全も大切であることに気付かせ、地域の産業でもある漁業を理解する機会とする。また、理科「受けつがれる生命」で学ぶメダカやヒトの成長と関連付け、共通点・相違点など、科学的な視点から観察する経験を積む。学習したことを、新聞やプレゼンテーションにまとめ、発表する。

#### 1-5. 単元設定の理由・ねらい

海を見つめ直す意識と態度を育むために、地域の産業とそれに携わってきた人々の努力を理解し、社会科・理科と関連させた学習を行うことで、より大きな教育効果が期待できると考えた。

海洋教育を通じて、地域が育ててきた産業や人々の努力を尊重する思いを持ち、体験したことを他者に伝える意欲を高め、より適切に伝えるための表現力を育むことをねらいとする。

#### 1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・養殖・栽培漁業への理解を深め、水産資源を守ることと環境保全の大切さに気付く。
- ・体験活動や伝え合う活動を通して、より適切に伝えるための表現力を育む。
- ・自分たちの住む地域で育ててきた豊かな水産資源と、新しい産業としての養殖・栽培漁業、及びそれに携わってきた人々の思いを理解し、海を見つめ直す意識と態度を育む。

1-7. 単元の展開（全13時間）【5学年】

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 } 2	<p>「マグロ養殖について学ぼう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クロマグロ完全養殖に成功するまでの経緯やクロマグロ完全養殖の意義、将来への展望について話を聞く。</li> <li>・マグロ養殖に関して、聞きたいことを質問する。</li> </ul>	<p>[教師の指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜メモをとりながら話を聞くよう指導を行う。</li> </ul> <p>[外部連携]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近畿大学水産研究所 熊井英水先生</li> </ul> <p>[使用教材]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊井先生からの資料</li> </ul> <p>(評) 興味関心を持って聞いている。【態度：メモ】</p>
3 } 5	<p>「マグロ養殖について、まとめよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊井先生から聞いたお話をもとに、マグロ養殖について新聞にまとめる。</li> </ul>	<p>[教師の指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録画像等を提示しながら、聞いた話を想起しやすいようにさせる。</li> <li>・巡回指導を行う。</li> </ul> <p>(評) 聞いたことを基に、分かりやすく新聞にまとめている。【思考・判断・表現：新聞】</p>
6 } 8	<p>「大島実験場の見学に行こう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養殖場を見学し、養殖業について学ぶ。</li> </ul>	<p>[教師の指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜メモをとりながら話を聞くよう指導を行う。</li> </ul> <p>[外部連携]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近畿大学水産研究所 大島実験場</li> </ul> <p>(評) 養殖業について学んだことを養殖業の大切さという観点のもとに記述している。</p> <p>【知識・技能：ワークシート】</p>
9 } 12	<p>「養殖業について学んだことをまとめよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊井英水先生からの話や大島実験場見学で見たこと聞いたことをもとに、養殖業について学習したことをまとめる。</li> </ul>	<p>[教師の指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録画像等を提示しながら、学習内容を想起しやすいようにさせる。</li> <li>・巡回指導を行う。</li> <li>・書き上げた原稿を読み返したり、発表の練習を行ったりする中で、より適切に伝えるためにはどうすればよいか考えさせる。</li> </ul> <p>(評) これまでの学習を基に、分かりやすくまとめている。【思考・判断・表現：プレゼン資料】</p>
13	<p>「養殖業について学んだことを発表しよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養殖業について学習したことを保護者に発信する。(養殖業のありがたみや環境保全の大切さ等も含む。)</li> </ul>	<p>[教師の指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真やプレゼンボードを掲示したり、クイズ形式も取り入れたりすることで、最後まで興味をもって聞いてもらえるように工夫させる。</li> </ul> <p>(評) 資料を使って分かりやすく伝えている。</p> <p>【態度：プレゼンの様子】</p>

## 2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

### 2-1. 単元における位置づけ

単元 13 時間中の 6～8 時間目

※例：単元10時間中の2時間目 / 単元15時間中の4,5時間目

### 2-2. 本時の目標

- ・大島実験場に行き、実際の養殖場について知る。
- ・養殖業に携わる方から話を聞くことで、養殖業の大変さやありがたさについて理解する。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>「大島実験場の見学に行こう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養殖業について話を聞く。 [反応]大島実験場で養殖をしている魚の種類のに驚きを見せる。</li> <li>・巨大なろ過タンクを見る。 [反応]理科で「ろ過」を学習したばかりだが、ろ過する水量の多さや速さに驚きを見せる。</li> <li>・シマアジの養殖場に行き、シマアジについて話を聞く。 [反応]シマアジの固体の多さ、泳ぐスピードの速さに驚きを見せる。</li> <li>・ブリの養殖場でブリについて話を聞き、エサやり体験をする。 [反応]ブリ用のエサは人間が食べることもできると聞いて、「食べてみたい!」と話す。実際に食べてみると、「噛んだらかつお節の味がする。」と嬉しそうに話す児童や、「ずっと口の中に味が残る。」と渋い表情を見せる児童がいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜メモをとりながら話を聞くよう指導を行う。</li> <li>・カメラで、学習の様子を記録する。</li> <li>・安全に配慮しながら児童の補助を行う。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  </div> <p><b>【評価】</b> 養殖業について学んだことを養殖業の大切さという観点のもとに記述しているか。</p> <p style="text-align: center;"><b>【知識・技能：ワークシート】</b></p>

### 3. 今回の活動の自己評価

学習前は、“養殖”について良いイメージを持っていない様子であった。しかし、今回の活動を通して、そのイメージは変わったようだ。養殖について学習し、また、職員の方から海の生物が減ってきているということを教わり、さらに実際に養殖の現場を見ることで、「養殖業の大切さとありがたみを感じました。」という振り返りがあった。初めは、「天然モノじゃなかったらおいしくない。」と発言していた児童も学習のまとめでは、「養殖業のおかげで、海の資源は保たれています。養殖の仕事はとても有り難いです。魚を食べるときには、海の命をいただいていること、また、養殖のありがたみを感じてください。」とお家の方に発信できていた。

養殖・栽培漁業への理解を深め、水産資源を守ることと環境保全の大切さに気付き、海を見つめ直すきっかけとなるよい活動ができた。

### 4. 今後の課題

新しい単元開発として取り組む学習として計画を立てていたが、5年生社会科「水産業のさかんな地域」理科「受けつがれる命」について学習する時期が6月だったため、体験活動が実施できる時期と大きくずれが生じた。そのため、教科と関連付けた取組に至らず、学習時期も学年の後半となってしまった。2021年度は、社会科・理科との関連を意識し、校区内の近畿大学浦神水産研究所とも連携した取組となるようカリキュラム編成をしていきたい。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS明朝、10.5ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書\_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書\_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。